

公民館を訪ねて

歴史が息づく いにしえロマンの里

1 酒生地区の概要

酒生地区は、福井市の東部にあり、JR福井駅より約7kmと市内中心部から比較的近い距離に位置する。同地区は、低山地や丘陵に囲まれ、足羽川（あすわがわ）が潤す扇状地が広がる水に恵まれた豊かな田園地帯である。元は足羽郡酒生村で、町村合併により足羽村から足羽町への変遷をたどり、昭和46年（1971）に福井市に合併し、現在に至る。

梅野、稲津、荒木新保、荒木、成願寺、篠尾、高尾、前波、宿布、高尾第一、篠尾台の11の地区（集落）が国道158号線に沿って東西に細長くあり、世帯数1,114、人口約3,200（男女半数づつ）が暮らしている。

古代からの遺跡も多く、奈良時代の寺院跡や北陸最大の古墳群（約330基）が確認されている。篠尾廃寺跡の大礎石は五重塔跡とも云われ、近くの井戸から酒がこんこんと湧き出たという伝説より、酒生（さこう）の名がついたとも。また、明治30年代に京都電灯会社が設置した全国で3番目となる水力発電所跡もあります。そうしたことから、「酒生 いにしえロマンの里」とるなど、歴史や文化に根付いた地区です。

2 歴史や自然を生かしたまちづくり

地区内には、さまざまな歴史遺産が数多くあり、これらを活かしたまちづくり事業をおこなってきた。平成9年（1997）から始まった「酒生遺跡まつり」は、地区の3大イベントの一つとして、酒生小学校グラウンドを会場に開催されていた。篠尾廃寺跡で採火した灯を会場まで行列して運び、11地区の自治会長によって聖火台に点火し、地区の団結と誓い合った。多くの地区住民が集まり、遺跡祭りを通じて、酒生地区民としてのアイデンティティーの醸成と住民同士の絆を深める機会となった。この遺跡まつりは、令和元年ま

で22回を数えたが、イベント内容の見直しなどにより現在は中断し、開催内容を検討している。



また、歴史遺産や地区内の行事などを題材とした「酒生ふるさとかるた」を制作し、学校や社会福祉協議会などで活用され、ふるさとの歴史に親しむ機会となっている。



さらに、自然豊かな地区の風景を写真で紹介するカレンダーの作成し、地区内全戸に配布している。地区住民から募集した1月～12月の各季節ごとの自然風景写真を掲載したもので、酒生地区の自然を見直すきっかけにもなっている。



3 「赤いハッピー」が地域の元気印

平成13年福井市の「青年活性化事業」を受け、平成15年に青年グループ「さこう工務店」が発足した。

「さこう工務店」の名前は、自分たちが酒生の土台を作っていくという意味。気の置けない仲間たちと、トレードマークの赤いハッピーを着用し、地区事業に参加して地域の方々との交流を深めている。

年末好例の「もちつき大会」では、杵と臼を使ったもちつきを子どもたちと一緒に体験し、できたてのおもちを振る舞っている。また、三月に移行した福井市主催はたちの集いの後、「おめでとう二十歳パーティー」を開催。晴れ着姿の新成人たちをお祝いした。地域の人から声をかけられ、自分たちが活動していることでこんなに喜んでもらっているということを実感し、将来自分たちがこの地区を支えていくのだという意識を持っている。平成18年には「地域青年実践大賞奨励賞」、令和2年には、「あすの福井県を創る運動優良実践団体」を受賞した。



もちつき大会
うすとり
こづきは
まかせとけ！

4 わたしたちは「同級生」

「学びたい」という意識を持ったシニア層(60~80代)が月に1回「かえるの楽校」に出席し、国語の音読や数字遊び等に取り組み、同級生と楽しい学校生活を送っている。一日の時間割は、鐘の合図と共に「朝の会」の出欠確認と校訓(※)を唱和し、授業は30分間を2限行う。その後は、おしゃべりを楽しめる「放課後」の時間となる。地域の歴史や、季節を感じる工作、どなたでも参加できる授業参観や、バス遠足など、参加・体験型の教育事業を展開している。



かえるの楽校の校訓

また、小学校の教科書を活用し、「回想法」の手法や生徒の提案を取り入れながら、同級生と一緒に楽しく学び、町内を越えたコミュニケーションがとれるような工夫をしている。いくつになっても「楽校(学校)だから新しいことにチャレンジ出来る」という向上心。あきらめない精神は、戦後や震災を体験されたことや、培われた豊富な人生経験と、柔軟な対応に繋がっている。これこそ知恵を備えた「生き抜く力」そのものであると痛感している。春から10年目を迎え、めでたく高校一年生である。



秋のバス遠足 朝倉氏博物館
水の駅で羽釜飯に舌鼓

5、好奇心から学級に

毎年、酒生小学校の四年生が町探検で公民館を訪ねて来る。ある生徒が公民館に置いてあった「古切手」に興味をもち、後日、自分で調べたメモ紙を持って来館。これが、「ちよこっと運動」の始まりである。古切手から、エコキャップ・プルタグ・バルマーク・アルミ付き紙パックにテトラマーク付紙パックへと回収の輪が拡

がり、はや10年。地元のご婦人方が毎月1回集計活動を引き継いで下さり、30,000点を超えたベルマークで小学校にスリッパを贈呈することができた。

その生徒も二十歳を迎え、工務店企画の「おめでとう二十歳パーティー」で再会を喜んだ。



ベルマークの仕分けと集計



おめでとう二十歳パーティー

6. 受け継がれる絆

生公民館には自慢の部屋、24.5畳の和室と、横づけの調理室がある。赤ちゃんから高齢者まで、誰もがホッとできる癒しの空間として、公民館を見守り続けてくれている。平成に入った頃、子育ての支援が充分ではなく、育児に悩む親世代のニーズに公民館がいち早く応えた。「なかよしサークル」の誕生である。三世代家族も多い酒生地区では、祖父母や親世代の情報交換の場として定着した。



あれから30年…昔からどこの家にも有った家族団らんの間、和室。生活環境の変化と共に、姿が消えかけている和室で育まれてきた絆を、公民館の和室が引き継ぎ、地域の活動を見守っている。

当時の赤ちゃんが、今はパパとして遊びに来ている。

「さこう工務店」を経験した若者が地区内の各種団体の役員になり活動しているので、公民館活動も大変円滑に進められている。また、中学生を公民館活動に参加してもらうために、中学校、保護者、中学生本人に何回も話をし、理解をしてもらえるようになり、今年で3年目になった。これからも、継続的に公民館活動への理解を得られるような取組をしていくための地道な活動を続けていきたい。



地区体育祭での中学生たちのお店



公民館のホームページやInstagramも更新しているので、日々どのような活動が行われているのかのぞいてみてください♪

